

## <会員による自著紹介>

# 大学生のための文章表現練習帳

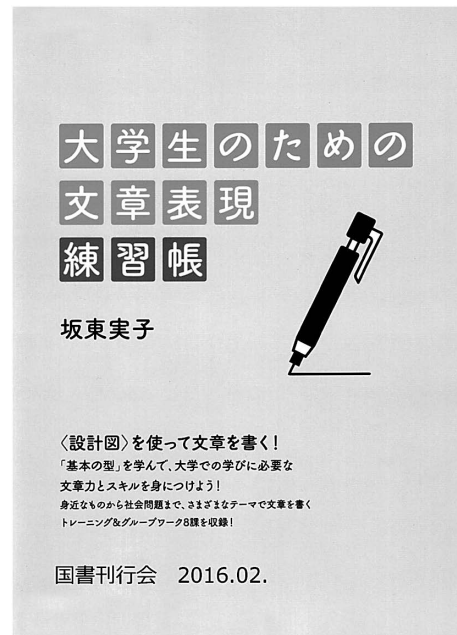
坂東実子<sup>1), 2)</sup>

<sup>1)</sup> 敬愛大学

<sup>2)</sup> 東京外国語大学

国書刊行会 (2016年発行)

定価 1,000円 (税別)



既刊『大学生のための文章表現&口頭発表 練習帳』(共著 国書刊行会 2013) から担当分を独立させ単著の形で加筆・修正したものです。大学で専門教育を学ぶためには、論理的に物事を考え、論理を組み立てながら表現する力が必要です。しかし、近年の受験の多様化や学習環境の変化の中で、学術書や新聞など論理的文章に触れる経験(インプット)がほとんどないまま大学に入学する学生も増えています。本書は、そのような学生たちのインプット不足を補いながら、文章表現・口頭発表(アウトプット)する力を育むために作成されたトレーニングテキストです。2013年版には収録しなかった「グループワーク」(初年次教育学会大会:2014 帝塚山大学と2016 四国大学で報告したもの)を新たに加筆しました。賛否に分かれるテーマの新聞記事を選び、5~6名のグループで賛成立論・反対立論のシートを作成し、模擬ディベートをした上で、さらに「自分の意見文」を書くという取り組みです。賛否両方の立論に取り組むことで、それまで自分が直感的に支持する立場の意見にしか耳を傾けない傾向にあった学生たちも、自分と反対の立場を支持する意見に耳を傾け、積極的に考えるようになります。また、各立論には3つの根拠をあげることが促されていますが、「まず~」「次に~」「最後に~」で始まる3つの根拠それぞれの性質の違いを指示しています。第一の根拠(「まず~」)は、誰もが思い浮かぶ実際問題、第二の根拠(「次に~」)は効果や影響上の問題、第三の根拠(「最後に~」)は普遍的あるいはグローバルな問題、という3種類の観点から根拠を整理し、把握するというものです。個人では難しくても、グループで取り組むことで相乗効果や補い合いが生まれます。多様な観点から物事を考える力を学生に育むための一助となれば幸いです。